

F 1 — 国

〔3月日程〕

二〇二二年度入学試験

国語〔現代文〕試験問題

注意事項

- 一、指示があるまで開かないこと。
- 二、問題は一〇ページである。万一、落丁などがある場合は直ちに申し出ること。
- 三、解答用紙は解答用紙A(マークシート)と解答用紙B(記述式)の二種類である。
- 四、解答はすべて解答用紙に記入すること。
- 五、解答用紙には座席番号、氏名を忘れずに記入すること。
- 六、解答用紙A(マークシート)の記入にあたっては、次の事項について注意すること。
 - ・ HBの鉛筆またはマークシートペンを使用すること。(シャープペンシルは不可)
 - ・ 解答用紙に記載の「記入上の注意」をよく読んでから記入すること。
- 七、試験問題は持ち帰ること。

— 次の文章をよく読んで、後の問に答えなさい。

動物たちが風景に内在する。その切り口はなんでもないように見えながら、思想としての実質をもつ。ばくぜんとした常識に對抗する独創であった。

〔明治大正史世相篇^{へん}〕の「風光推移」には、ネズミやヘビ、イヌ、ネコ、ハト、スズメ、コウモリ、オオカミといった、じつにさまざまな動物たちが登場する。それは、志賀重昂以降われわれの時代にまでつづく風景概念の山水風土中心主義に対し、たしかに新鮮な効果をもつ。風景が、ともすれば人間をも排した、生物なき景觀になりはてしまっていることに対し、介入的でしたら

あった。

ここでは、風景という概念はかなり意識的に、しかも特有の主張をこめて使われている。たとえば「風光推移」のむすびの文章に、野鳥・野獣という名でくられた生き物たちは、絶滅を「A」るはるか以前に、すでにわれわれの「風景」のなかにいなかったのである、とのべている。そこで使われた風景の語にこめられているのは、動物愛護の詠歎^{えいたん}ではない。むしろわれわれの風景概念の存立の形態をこそ分析すべきなのだというヨウセイ^①である。

すなわち、動物たちは風景画の一素材ではなく、風景を構成する主体（もしくは主体として抽象しうる関係性）の重要な一部であった。そうした論理に、われわれの近代が見失ったかもしれないある思想性を感じる。この風景論は生態系そのもののひろがりにおいて、風景をつくる主体性を構想した、との解釈が可能だからである。かつて一時代をつくった風景論のように地表の形がエッセンシャルな実体として「B」るかわりに、柿^{あんず}や杏^{あんず}や椿^{つばき}といった植物、家禽^{かきん}や野獣と人間とのかわりが、テーマ化される。そうした主体たちが風景をなしてゆく過程こそが主題化される。

〔イ〕、この歴史社会学者の風景論は、土地を含めた空間利用のしかたに注目し、動物たちの排除がけっして狩猟家と鉄砲だけの罪ではない。ようするに彼らの生活を不可能ならしめるような人間の土地利用があったと説き、また「野鳥を疎外した大建築物」に言及した。それはハード面での空間利用を重視しているというより、近代にすむ人間社会のソフト面での喪失を指摘

するものであったのではないか。

【ロ】、ひとは動物たちと空間を共有する作法を失ったのである。「村の狗いぬ」としかいいようのない X は知らないあいだに絶え、私有された飼い犬と対照的な「のら犬」という残余概念が誕生した。それは、われわれの「だらしのない放牧」の終焉しゅうげんを意味する。もちろん、なぜそのような喪失と終焉の歴史を、われわれが選んだのかについては、それぞれの素材に即してもういちどこまかく考察しなおす必要があるが、マクロには、動物たちの排除を近代の風景観念の特質のひとつととらえてよからう。動物園とペットに「C」る、動物たちの隔離とカンシかんしの誕生は、われわれのなかでとりむすばれている関係性の変容の一結果だったのである。

【ハ】、動物排除の批判からすぐに、この風景論がエコロジー主義的な保護と神聖視のそれだと断じてはならない。エコロジー主義のまなざしは、鳥や獣といった人間以外の生物の存在を「自然」と等置し、「自然に対するイケイいけい」^③とその喪失」というイデオロギー批判のなかに、現状の観察をとけこませてしまう。そんな自然の物神化ぶつじんかは、むしろ避けられるべき解読法であろう。そうした解読ばかりを先鋭化させる「エコロジー」のイデオロギー的早急さは、かえって危険な固定観念をとまなうのつべらぼうの一般化にすぎない。

【ニ】、風景ということばであらわされる環境の切りとりを、生活技術のひとつとして、環境との対話Ⅱコミュニケーションの実態からとらえなおそうとした、その解読の方向こそ、『明治大正史世相篇』第四章「風光推移」の構成が、今後に開いた可能性だからである。

【ホ】、この風景論は趣味への疎外を批判し、ペットや盆栽が、あるいは登山趣味が切りとる自然感受の固定化を批判したのである。カカイイコンコン事業が生活空間を押しひろげ、武器の革新による狩猟制度の近世や、写真などの視覚技術の変容をうちに含む記述制度の近代が、われわれと鳥獣との関係をまばらな、そして「D」たものにしてしまった。その質的な変容の内実こそが、問われねばならないだろう。「人と動物とのあいだがらがやや疎遠になって、かえってその噂は高くなった」。

「珍奇を賞する気もち」と「屋外の凡庸」に対する軽蔑とが、自然を感受する感受性のなかに、しだいしだいに浸透してくる。も

うすでに「最近の飼い鳥養殖にいたっては、よほど蓄音機や絹織物の製造に近い」人工の意図的な技芸なのであって、ペット愛護や観葉植物のハンランを、エコロジー的な感性や自然回帰の欲望の本性性において解説する議論は、「E」たロマン主義にすぎない。そればかりか、意図せざる無用な一般化を用意してしまう。

もういちどまとめよう。この風景論は、動物や植物たちとの関係性のありかたを重要な論点にすえようとした。草や花、樹木や鳥獣におよんだ記述が、虫や海洋の生物などには必ずしも厚くないことは、その観察のさしあたりの限界として留意しておく必要があるかもしれない。

しかし、そうした生き物たちの欠落を批判し、彼らとわれわれとの関係のありかたを、あえて風景概念の骨格として選び、その変容を記述しなおそうとした。そうした運動を内在させていたことこそ、ありうべき批判力の内実を形成する。自然の分離と物神化・均質化を、関係論的な解説において批判するこの風景論は、おそらくその可能性の深層において、エコロジカルである。

(佐藤健二『風景の生産・風景の解放』による)

注1 『明治大正史世相篇』——一九三一年一月、朝日新聞社刊。著者は民俗学者の柳田國男(二八七五—一九六二)。

注2 志賀重昂(しげたか)——一八六三—一九二七。思想家、政治家。主著に『日本風景論』(一八九四年刊)がある。

注3 この歴史社会学者——柳田國男を指す。

注4 物神化——あるものを、その本来の価値以上に崇めること。

問一 波線部①⑤のカタカナの部分で、適切な漢字に改めなさい。〔解答用紙B〕

問二 X に入る「同じような種類のものが含まれる分類範囲」という意味の外来語を、カタカナ五字以内で記しなさい。
〔解答用紙B〕

問三 「A」「E」に入る語としてもっとも適切なものを、それぞれ次の中から選んで、番号をマークしなさい。〔解答用紙A〕

- | | | | |
|----------|---------|---------|--------|
| 1 裏がえされ | 2 解体され | 3 切り離され | 4 象徴され |
| 5 とりざたされ | 6 取りだされ | | |

問四 「イ」「ホ」に入る語句としてもっとも適切なものを、それぞれ次の中から選んで、番号をマークしなさい。〔解答用紙A〕

- | | | | |
|----------|--------|----------|--------|
| 1 しかし | 2 すなわち | 3 そうではなく | 4 たとえば |
| 5 であればこそ | 6 むろん | | |

問五 傍線部(a)～(e)の動詞の活用の種類と活用形を、それぞれ次の中から選んで、番号をマークしなさい。〔解答用紙A〕

- | | | |
|-------------|--------------|--------------|
| 1 五段活用・未然形 | 2 五段活用・連用形 | 3 下一段活用・未然形 |
| 4 下一段活用・連用形 | 5 サ行変格活用・未然形 | 6 サ行変格活用・連用形 |

問六 問題文の内容に合致するものを、次の中から二つ選んで、番号をマークしなさい。〔解答用紙A〕

- 1 近代社会では人間が動物に対して主体的に関与する機会が失われた。
- 2 自然を敬う人間の気持ちの喪失が近代の急速な山村開発をもたらした。
- 3 野生の鳥や獣の減少が近代の風景概念における動物排除の原因である。
- 4 生活様式の変化に伴い自然が保護すべき対象と見なされるようになった。
- 5 近代社会は生活に不可欠な存在として自然を対象化する視線を失った。
- 6 自然と人間との関係が変化した結果、エコロジー主義が生み出された。

問七 『明治大正史世相篇』で展開された柳田國男の風景論のどのような点が近代に対する批判になりうるのか。問題文の内容をふまえて、二五字～三五字で説明しなさい。その際、「自然」「生活空間」の二語を必ず用いること。〔解答用紙B〕

二 次の文章をよく読んで、後の問に答えなさい。なお、設問の都合上、段落番号を付してある。

① ロッサー・リーブスは、マジソン街で最もカリスマ性のある広告マンだった。消費者が人生で求めているのは幸福だ、と彼は言った。だがしかし、現代生活は恐怖に満ちている。人は失敗を恐れ、拒絶を恐れ、配偶者に捨てられることを恐れ、上司から降格を告げられることを恐れる。そうした恐れは本物で、恐がっている消費者にものを売るには、恐怖のボタンを押して不安を最大限に増幅させ、解決策を売り込むのが一番だ。

② いま、わたしたちは、自分を恐れから解放してくれる日用品を何千と使っている。そんな商品がスーパーの棚を埋め尽くしている。口臭防止剤やデオドラント剤は、臭いという a を拭ってくれる。しわ対策クリームは、老化の恐れを一時的に遅らせてくれる。

③ ロッサー・リーブスは、それをある言葉にまとめた。「i」。マジソン街の天才は事実を新しいなにかに変えた。事実とは粘土のようなもので、それを「ア」と代替現実につまり売り込みたい「物語」^Iに変えることができる。事實は、偉大な社会貢献事業のために整理されることになった。販売、という大義のために。

④ 恐れは販売のための素晴らしい武器だった。自宅は b まれに見るほど安全な場所になり、戦争や病気で死ぬ方がありがちに感じられた。恐れは病的なほどに高まった。実際にはテロ攻撃よりもトースターで死ぬ確率の方が高かったが、そんな事實は ii 。

⑤ 1997年、鳥インフルエンザが流行し、世界中の空港に恐怖が広がった。鳥インフルエンザの次はデング熱、SARSが流行し、2004年にはふたたび謎の感染症エボラ出血熱が戻ってきた。

⑥ 恐れはいまや c 的なもので、石鹸業界はお手軽な解決策を売り込んでいる。ばい菌を殺して感染を防ぐ商品だ。恐れを追い出すために「滅菌」ソープが発明された。石鹸はゆっくりとお風呂に入りながら一日一度使うものから、ばい菌と闘うための武器として毎分ごとに使われるようになった。食品を触る台所でも、子供たちを守るために洗面所でも、ペットにも使

われるようになった。

7 ばい菌との闘いは、d 戦争にすぎない。本当の相手は、滅菌手ぬぐいでは拭いきれない汚染された世界だ。病気、大気汚染、「イ」られた移民の幻想。それらすべては消費者の《…iii》問題だ。しかし、ばい菌との闘いには勝てる。広告では家じゅうの表面にサルモネラ菌や大腸菌が「ウ」様子が映し出され、15秒おきに滅菌スプレーを振りかけた気になせる。

8 滅菌ソープは新しい市場を切り開いた。強迫性神経症患者だ。わたしたちの最悪の衛生面の恐れに「エ」たことで、滅菌ソープは強迫性神経症患者のお気に入りになった。

9 バリー・シェイフェはスーツ姿の静かな男性だ。2000年代のはじめ、彼は世界最大の石鹼メーカー、カッソングの製品開発責任者だった。滅菌スプレーのカレックスを開発したのが、バリーだ。カレックスをきっかけに世界中で滅菌スプレーが発売された。

10 大衆の恐れにつけ込む必要さえなかった、とバリーは言った。「感染症の報道だけで、消費者は滅菌ソープに「オ」たんです」わざわざ広告で恐ろしい話を作らなくても、テロ攻撃やエボラ熱の報道が広告のかわりになる。滅菌スプレーは幻想を売っていた。

11 しかし安心は《iv》。家庭内からばい菌を追い出そうとするにつれ、子供の喘息や湿疹が増えた。それは、家庭に入り込んだ新たな有害物質と直接関係していた。環境保護庁によると、現在の平均的な家の中は外の空気より2倍から5倍汚染されている。それは家庭用クレンザーや空気清浄スプレーや強力な滅菌スプレーによる「清浄化」のeだ。

12 わたしたちは、ばい菌を家から追い出そうとして、家を有害なものにしてしまった。しかし汚染を取り除くことで有害な家を作り出したという事実は、《v》ような「危険」の幻想の横に置かれると、無視されてしまう。^{II}恐れはあまりに魅力的で、事実に勝った。悪魔に満ちた恐ろしい外の世界という幻想を、わたしたちは受け入れた。真実を聞きたい人などどこにもいなかった。

問一 次のAとBの一文は、問題文の中の、ある段落の末尾文である。それぞれの段落に入るか、第1段落から第10段落までの範囲で選んで、番号をマークしなさい。〔解答用紙A〕

A 危険な世界での安心という幻想を。

B 消毒スプレーやお手拭きは、ばい菌の恐怖からわたしたちを守ってくれる。

問二

a

e

に入る語を、それぞれ次の中から選んで、番号をマークしなさい。〔解答用紙A〕

- | | | | | | | |
|---|---|----|---|----|---|----|
| a | 1 | 嗅覚 | 2 | 細菌 | 3 | 汚点 |
| b | 1 | 市場 | 2 | 至上 | 3 | 史上 |
| c | 1 | 生得 | 2 | 反射 | 3 | 義務 |
| d | 1 | 代理 | 2 | 防衛 | 3 | 侵略 |
| e | 1 | 恩恵 | 2 | 産物 | 3 | 報復 |

問三 「ア」「オ」に入る動詞を、それぞれ次の中から選んで、番号をマークしなさい(活用形の違いを問わない)。〔解答用紙A〕

- | | | | | | | | | | |
|---|------|---|-----|---|-------|---|--------|---|----|
| 1 | うごめく | 2 | 訴える | 3 | こねまわす | 4 | でっち上げる | 5 | 走る |
|---|------|---|-----|---|-------|---|--------|---|----|

問四 《 i 》 《 v 》に入る表現を、それぞれ次の中から選んで、番号をマークしなさい。〔解答用紙A〕

- | | | | | | | |
|-----|---|---------|---|---------|---|--------|
| i | 1 | 恐れにうちかつ | 2 | 恐れにつけこむ | 3 | 恐れにかえる |
| ii | 1 | 下に置かれた | 2 | 後ろに置かれた | 3 | 脇に置かれた |
| iii | 1 | 手に余る | 2 | 手をこまねく | 3 | 手に負える |
| iv | 1 | 底をついた | 2 | 高くついた | 3 | 易きについた |
| v | 1 | はっとする | 2 | ぞっとする | 3 | かっとする |

問五 波線部Ⅰの「物語」の説明としてもっとも適切なものを、次の中から選んで、番号をマークしなさい。〔解答用紙A〕

- 1 事実を自分の都合に合わせて作り変えたもの。
- 2 事実とは関係なく幻想として作り出したもの。
- 3 事実のすべてではなくその一部を示したもの。
- 4 事実を素材にして作品として生み出したもの。

問六 波線部Ⅱの「恐れはあまりに魅力的で」の説明としてもっとも適切なものを、次の中から選んで、番号をマークしなさい。

〔解答用紙A〕

- 1 恐れという感情は人間の生存に欠かせないということ。
- 2 現実よりも幻想の恐れのほうが受け入れやすいということ。
- 3 恐れがあるからこそ安心が得られるということ。
- 4 恐れが無くてはもはや生きてゆけないということ。

問七 次のA～Cについて、問題文の趣旨に一致している場合は1を、一致していない場合は2を、マークしなさい。〔解答用

紙A〕

- A 現実世界には安心・安全というものは存在しえない。
- B 人々は自分の信じたいことのみを信じようとする。
- C 人々はより重大な危険からは極力目をそらそうとする。